

臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会(第24期・第1回)
議事要旨

1. 日時 平成30年4月16日(月) 14:00~16:00
2. 場所 日本学術会議6階 6-C会議室
3. 出席者 米倉義晴委員長、續輝久副委員長、神田玲子幹事、青木茂樹委員、秋葉澄伯委員、一ノ瀬正樹委員、稲葉俊哉委員、井上優介委員、遠藤啓吾委員、神谷研二委員、中島聡美委員、安村誠司委員、山下俊一委員
4. 配付資料
 - 資料1 臨床医学委員会分科会の設置について(分科会等名:放射線防護・リスクマネジメント分科会)
 - 資料2 報告 子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題 ―現在の科学的知見を福島に生かすために―(平成29年9月1日、日本学術会議 臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会)
 - 資料3 提言 医学教育における必修化をはじめとする放射線の健康リスク科学教育の充実(平成26年9月4日、日本学術会議 臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会)

5. 議事概要

(1) 役員(委員長、副委員長、幹事)の選出について

遠藤委員より、委員長に米倉委員を推薦する旨発言があり、了承された。米倉委員長が、副委員長に續委員、幹事に神田委員を推薦し、了承された。残りの幹事1名については今後の方針に合わせて選出することとした。

(2) 今後の活動方針について

今期の分科会の活動方針についてでフリーディスカッションを行った。

委員より挙げられたテーマは以下の通り。

◎放射線の健康リスク科学教育を軸にしたテーマ

- ・22期発出の提言の展開として、看護学、歯学、薬学、そして全学での放射線教育
- ・小中高生向けの教育
- ・原子力災害対応にリンクさせた教育制度の設計
- ・メンタルヘルス改善につながるリスク教育

◎研究推進を軸にしたテーマ

- ・放射線の健康リスク科学教育の担い手育成とカップリングさせた放射線影響研究の

推進

- ・放射線基礎医学研究基盤の強化
- ・診療報酬改定（画像診断管理加算）と連動した医療被ばくの疫学調査

以上の検討を行うに当たり、医療被ばくの現状、海外の低線量放射線影響研究の推進に関する動向、福島原発事故におけるリスクコミュニケーションの総括等に関する講演を専門家に依頼してはどうかといった意見が出された。

（3）その他

23 期に発出した報告に対する社会からの反響に関して、情報共有と対応方針に関する審議を行った。今後メールでの意見交換等により分科会としての意見を取りまとめて、幹事会に提出することとした。

次回は7月30日13時—15時に開催する予定。講師として、木下富雄氏（専門：リスクコミュニケーション）を招聘する方向で調整する。

以上